

小学校特別活動

1 小学校特別活動の指導と評価について

(1) 特別活動における学習評価の工夫

- ① 児童が自信をもったり、意欲を高めたりすることにつながる評価にする。そのためには、児童一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要である。
- ② 指導と評価に当たっては、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「児童のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。
- ③ 結果や出来映えだけでなく、活動の過程における努力や意欲なども認めることが大切である。児童のよさや頑張りを評価の一つに入れることも必要である。
- ④ 児童のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて共通理解を図るとともに教師相互の話合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切である。

(2) 指導要録について

- ① 各活動、学校行事ごとに、「十分満足できる状況にある」と判断される場合に○印を記入する。その上で、具体的な活動の状況等について、「総合所見及び指導上参考となる諸事項 諸事項」の欄に簡潔に記述し、評価の根拠を記録に残すことができる。
- ② 特別活動は、担任以外の教師が指導することも多いことから、評価体制を確立し共通理解を図って児童のよさや可能性を多面的・総合的に評価することが求められる。

2 小学校特別活動における1人1台端末の活用について

(1) 特別活動の指導においてICTを活用する際のポイント

- ① 指導内容や活動場面に応じて、適切にコンピュータや情報通信ネットワークなどを活用することによって、児童の学習の場を広げたり、学習の質を高めたりすることができる。
- ② 特別活動の特質である「集団活動、実践的な活動」の代替としてではなく、特別活動の学習の一層の充実を図るための有用な道具としてICTを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用することが重要である。
 - ア 議題を選定するとき、付箋機能を使う。児童一人一人がタブレットに書いたものを全体で表示して分類整理をする。
 - イ 計画委員が、議題を選定するのに、デジタルホワイトボードソフトの思考ツール機能を活用する。また、適切に選定するために電子黒板で提示する。
 - ※「議題の選定は計画委員会、でも決定は全員」という考え方が大切
 - ウ 児童会活動において、全校で集まるのが難しい場合は、テレビ放送やWeb会議ソフトを活用することで、みんなで一緒に体験したり活動したりできる。

3 特別活動を要としたキャリア教育

(1) 学級活動(3)一人一人のキャリア形成と自己実現

- ① 指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり将来の生き方(在り方)を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

(2) 「教材等を活用する」意義

- ① 小学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になることである。【横をつなぐ】

- ② 小学校から中学校，高等学校への系統的なキャリア教育を進めることに資するというものである。【縦をつなぐ】
- ③ 児童にとっては自己理解を深めるためのものとなり，教師にとっては児童理解を深めるものとなることである。【児童と教師をつなぐ】

(3) キャリア・パスポートの活用に向けて

- ① 学級活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には，学級活動の目標や内容に即したものとなるようにすること。
- ② 活動の記録のみに留まることなく，記録を用いて話し合い，意思決定を行うなどの学習過程を重視すること。
- ③ 小学校から高校まで全ての記録を持ち上げるには無理がある。内容の取捨選択や再編集など，少しの工夫が求められる。

「キャリア・パスポート」の学年・校種間の引き継ぎについて

- 「キャリア・パスポート」の学年間の引き継ぎは，原則，教師間で行うこととしており，また，校種間の引き継ぎは，原則，児童生徒を通じて行うこととしているので留意すること。
- 小・中学校においては，進学先への確実な引き継ぎに留意すること。特に中学校から高等学校への引き継ぎなど，学校設置者が異なる学校への引き継ぎの場合は，特に配慮を要すること。
- 中・高等学校においては，令和3年度入学者に対して「キャリア・パスポート」を提出させるとともに，自校のキャリア教育への活用を図ること。
- 高等学校においては，卒業生が「キャリア・パスポート」を以降のキャリア形成に活用できるように，確実に本人に返却すること。（高等学校に進学しない中学生も同様。）

令和3年2月19日 文部科学省初等中等教育局児童生徒課

4 学級活動の指導の充実

(1) 学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」の指導のポイント

- ① 提案理由が話し合いの収束の根拠になる。
(何のために行うのか，何のために話し合うのか)
- ② 折り合いをつけて合意形成を図る。
- ③ 振り返りを次の課題に生かす。

(2) 「話し合うこと」の適切な設定

- ① 基本的に「何をするか」「どのようにするか」「係分担はどうするか」が3つの大きな課題。
- ② 発達の段階を踏まえ「どのようにするか」に重点。

(3) 板書の工夫

- ① 短冊を活用するなど，意見を分類・整理して比べやすくする。
- ② 賛成・反対マークを貼るなど，話し合いの過程や状況が分かるようにする。

(4) よりよい合意形成

- ① 安易な多数決で結論を出さない。
- ② 多数意見でまとめていくことが基本だが，少数意見も尊重し，生かす工夫はないか考える。
- ③ それぞれの意見を比べ合いながら，「折り合い」をつけて合意形成を図る。

(5) 終末の「教師の話」のポイント

話し合い活動に対する指導と評価，前回と比べてよかったこと，次回に向けての課題，司会グループへのねぎらい，実践への意欲付け。

5 参考となる資料等について

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動

(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)